

生きた科学を目指して

天神川・東郷池サケの飼育放流プロジェクト 代表
東伯郡三朝町立東小学校 校長 中前雄一郎

鳥取県の河川に多くのサケが帰ってきていることをご存じでしょうか？毎年秋になると4年間の旅を終えたサケたちが、はるばる北の海からより強い子孫を残そうとふるさとの河川に帰って来ています。ベーリング海などで巨大化したサケたちが、千代川、天神川、日野川だけでなく、鳥取県の多くの河川に次々と帰ってきているのです。

1999年、地域の川にサケが帰ってきていること、そして天神川漁業協同組合が自主的に人工授精を行っていること、素晴らしい自然が残っていることなどを、少しでも多くの人に知ってもらいたいと考えて始めたのが『サケの飼育放流プロジェクト』です。

この『サケの飼育放流プロジェクト』は『わかとり科学技術育成会』と大変よく似たコンセプトで活動しています。それは、次世代を担う子どもたちにかかわる科学の体験学習ということだけでなく、次のような点で同じ目標を持っていると思うのです。

- ①体験をとおして自然や科学の楽しさ奥深さにふれること
- ②家族が同じテーマで楽しめること
- ③コミュニケーション能力を高めること
- ④次々と起こる問題を自力解決していきながら、問題解決能力を高めること
- ⑤活動の中で感動を感じることに

これらは、子どもたちにも今後の日本にも必要なことだと考えています。これからも、子どもたちと一緒に、様々な科学体験活動を、楽しみながら行っていきたいものです。



▲ふ化後1週目のサケの稚魚



▲ふ化後4週間のサケの稚魚